

(2) - 2) ④菜の花を活用した観光地の創出「千曲川・花の里山風景街道」 (長野県飯山市)

唱歌「朧月夜（おぼろづきよ）」の里として菜の花の保全・増殖による景観づくりが行われた結果、かつての田園風景を創出。地域づくりのシンボルとして波及し、観光や特産品の販売促進をはじめとした幅広い分野での活用が進んでいる。

a. 取組の背景と経緯

「朧月夜」の作詞家、高野辰之は飯山市の隣の中野市（旧豊田村）に生まれ、飯山市の小学校で教鞭を執っていた時期があり、そのときの菜の花畑の印象が後のおぼろ月夜の作詞のきっかけになったと言われている。

こうした背景から地元では朧月夜の里にふさわしい田園風景の再現と創出のため「菜の花さかせるかい」が1992年に結成され、菜の花公園を中心に活動がスタートした。

b. 活用方法

■ イベント開催による観光の活性化と特産品の販売促進

ゴールデンウィーク前後に見ごろを迎える菜の花は、豪雪地帯ならではの残雪や桜とのマッチングで全国的な見所として定着している。菜の花公園を中心に菜の花まつりが開催され、近隣の道の駅（「道の駅 花の駅千曲川」）での特産品の販売や千曲川での渡し船の実施など、地域の観光施設等の活性化に貢献している。

イベントでは菜の花太鼓フェスティバル、菜の花ゲートボール大会、朧月夜音楽祭が開かれており、北陸新幹線飯山駅へ通じる橋梁名を「菜の花大橋」とする等、多様な地域活性化のシンボルとして活用されている。

■ 景観形成のシンボルとしての活用

菜の花公園に隣接する千曲川河川敷における市民による整備活動のテーマとして菜の花が活用され、荒れた景観を花畑で再生するなど、景観形成の素材として利用されている。

c. 保全活動と野生生物への効果

当初、千曲川右岸の菜の花公園で始まった取組は、隣接する遊休農地や対岸の千曲川河川敷の荒廃地にも波及した。草刈りや植栽等による保全保護活動の結果、千曲川兩岸地域全域で菜の花の美しい景観再生が実現した。

また、菜の花の保全整備を契機に、草花による景観づくりに広く取り組まれるようになり、国土交通省「日本風景街道」にも認定された。菜の花の季節以外にも年間を通じて多くの草花が楽しめる地域となっている。



写真：取組によって千曲川河川敷に創出された朧月夜の菜の花の景観（長野県飯山市）